

GKU NOW

2025年度 卒業記念号!



CONTENTS

卒業生への Message	／	2-3
卒業生代表 Message	／	4
卒業生 OB&OG Message	／	5
卒業生進路 代表者インタビュー	／	6-7
4年間の軌跡	／	8-9
Memories	／	10-11
校友会だより	／	12

特集

岐阜協立大学の総括



学長
原田 理人

正解のない時代を生きる力

本日ここに、学位記を手に新たな一歩を踏み出される皆さんを、教職員一同、心より祝福申し上げます。

皆さんが本学で学んだこの数年間は、社会が大きく揺れ動く時代と重なっていました。感染症の拡大、国際情勢の不安定化、急速に進むデジタル化や生成AIの普及など、これまで「当たり前」と考えられてきた前提が次々と更新される中で、学び続けること自体が容易ではなかったかもしれません。そのような環境の中でも、自ら考え、悩み、試行錯誤を重ねながら今日の日を迎えた皆さんの努力に、深い敬意を表したいと思います。

これから皆さんが向き合う社会は、正解が一つではない、むしろ正解が見えにくい時代です。効率や合理性が強く求められる一方で、人の思いや背景を丁寧にくみ取る力、異なる価値観と向き合い続ける姿勢が、これまで以上に重要になっています。テクノロジーが進歩すればするほど、人間にしかできない「考える力」「関わる力」「意味を問い直す力」が問われるようになります。

大学での学びは、知識を身につけることだけを目的としていません。問いを立てること、簡単に答えを出さずに考え続けること、他者との対話を通じて視野を広げることなどの積み重ねこそが、皆さんの中に確かな土台として残っているはずで、社会に出た後、思うようにいかない場面や迷いを感じる瞬間もあるでしょう。そのときこそ、大学で培った「立ち止まり、考え直す力」を思い出してください。

皆さん一人ひとりの歩みは小さな一歩に見えるかもしれませんが、しかし、その一歩一歩が、地域を、組織を、そして社会を少しずつ変えていきます。本学で学んだ卒業生として、自らの仕事や生き方に誇りを持ち、同時に学び続ける姿勢を忘れないでください。

本学は、これからも皆さんの母校として、変わり続ける社会とともに進化を遂げながら歩み続けます。困ったとき、立ち止まりたくなったときには、いつでもここを思い出してください。皆さんの未来が、それぞれの場所で豊かに拓かれていくことを、心より願っております。



副学長
石坂 信一郎

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、今日まで慈しみ育ててこられた保護者の皆様にも、心よりお祝いを申し上げます。

皆さんは、これから「社会」という大海原へと船出します。社会とは、一人ひとりが他者のために新たな価値を創造し、互いの貢献によって成り立つものです。本学で培った知見や経験を、自分一人のためだけではなく、誰かの役に立つためにという志へと昇華させ、社会の要請に正面から挑戦していきましょう。

変化の激しい現代では、少子高齢化や地場産業の活性化といった地域課題に向き合う価値が高まっています。皆さんには、人々の暮らしを支え、新たな活力を生み出す力が十分に備わっていると確信しています。

人生という航海では、困難に直面することもあるでしょう。そのような時も、与えられたミッションに誠実に取り組み、自分を信じて歩んでください。皆さんの前途が希望に満ちたものであることを心より願っています。



副学長
平手 賢治

晴れて卒業式を迎えられる皆様、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

皆様のご卒業にあたり、米国南北戦争で傷ついた無名兵士が残したといわれる有名な詩をお贈りします。

「成功をおさめるために力を与えてほしいと神に求めたのに、慎み深く従順であるようにと弱さを授かった。／偉大なことをするために健康を求めたのにより良きことができるようにと病気を与えられた。／幸せになろうとして富を求めたのに賢明であるようにと貧困をたまわった。／世の人々の賞賛を得ようとして権力を求めたのに、神を求め続けるようにと弱さを授かった。／人生を楽しめるようにとあらゆるものを求めたのにあらゆることを楽しめるようにと命をたまわった。／求めたものは一つとして与えられなかったが願いはすべて聞き届けられた。／神のみ心に添わぬ者であるにもかかわらず言葉に出さなかった祈りはすべてかなえられた。／私はあらゆる人の中で最も豊かに祝福されたのだ」(渡辺和子訳)。

これからのあなた方の人生で出会うであろう、弱さ、病気、貧困、失敗。これらは、苦難ではなく、真に価値ある体験であり、偉大ナルモノからの贈り物です。

皆様の未来に愛と希望が満ち溢れんことを祈っております。

卒業生代表『Message』



久保園 大輝 経済学部 公共政策学科

所属: 藤井ゼミ、男子バレーボール部、自治体財政研究会
卒業後の進路: 岐阜県庁

大学生活で最も印象に残っているのは、全日本インカレでの経験です。2・3年次はレギュラーとして出場し、先輩方と一日でも長くプレーするため、これまでにない緊張感の中で試合に臨みました。4年次は1年次と同じ途中出場という形でしたが、最後までやり抜くことができ、かけがえのない思い出となりました。

競技生活を通して基礎の大切さを学びました。大学進学を機にポジションを変更し、トップリーグで活躍された監督の下で高いレベルに挑戦しました。理解していても体現する難しさに直面し、試行錯誤を重ねる中で、これまで積み上げてきた基礎こそが応用を支えていると実感しました。この経験は社会人としても活かしていきたいです。

また、男子バレーボール部での活動と並行して自治体財政研究会の代表を務めたことも大きな成長につながりました。自治体職員や東海財務局職員、広域自治会長、高校教員の方々と直接やり取りする中で、その場に応じた対応や責任ある判断を求められ、自身の未熟さを痛感することもありましたが、貴重な学びの機会となりました。

就職活動と公務員試験に専念するため半年間休部するという決断を理解しえてくれた監督やチームメイト、研究活動や地域活動を共に進めてくれた研究会の仲間には心から感謝しています。

今後は岐阜県庁職員として、部活動で培った体力と忍耐力を活かし、前向きかつ柔軟な姿勢で職務に取り組みます。そして、過疎化が進む地域の在り方も見据えながら、持続可能な地域づくりを広域行政の立場から支えられる職員へと成長していきます。



木村 有貴 経営学部 情報学科

所属: 市川ゼミ 卒業後の進路: 大学院進学(岐阜大学)

大学生活で最も力を注いだのは、教職課程での学びと、小学校プログラミング教育の研究です。Scratchとtoioを活用し、図画工作と関連づけた「つくりながら考える」授業実践を追究したことが、特に印象に残っています。プログラミング教育では、正解にたどり着くこと以上に、自分なりの発想を形にし、修正を重ねながら表現を深めていく過程に大きな意味があると学びました。

取り組む中で大切にしていたのは、一つの正解にとらわれず、子どもの視点に立って考えることです。教材研究や模擬授業、実践と振り返りを繰り返す中で、うまくいかない経験も次の学びに活かす姿勢を意識してきました。「どうすれば伝わるか」「どうすれば安心して挑戦できるか」を常に考え試行錯誤を重ねたことで、授業は子どもと共に学びを創る場であると実感できました。また、一人ひとりの違いを尊重し、安心して挑戦できる環境づくりこそが、学びを支える土台であると感じています。

思い通りにいかないことも多かったのですが、そのたびに先生方や仲間が助言をくださいました。多くの支えの中で自分なりの教育観を形にできたことに、心から感謝しています。

後輩の皆さんへ。大学での学びは、すぐに正解が見つかるものばかりではありません。だからこそ、自分なりに考え、試し、振り返る過程を大切にしてください。仲間や先生との対話を重ねながら、自分の関心を深く追究した経験は、必ずこれからの自分を支える力になります。

これから社会に出ても、大学での学びを土台に、子ども一人ひとりが安心して挑戦し、自分の考えを表現できる学びの場を創り続けていきたいと思っています。学び続ける教師として、成長し続けていく決意です。



卒業生OB&OG『Message』



三留 汐利 2024年度 経営学部 スポーツ経営学科卒

所属: 女子バレーボール部
勤務先: トヨタ車体株式会社/クインシーズ刈谷 職種: 事務系総合職

現在はトヨタ車体株式会社の物流改革部に所属しながら、プロバレーボールチーム「クインシーズ刈谷」でSVリーグを戦っています。会社やスポンサー、ファンの皆さんに支えていただきながら、大好きなバレーボールに本気で向き合える環境にとっても充実感を覚えています。

大学では教職課程を履修し、高等学校保健体育の教員免許を取得しました。教育実習では綿密な指導案を準備しましたが、実践では想定通りに進まないことも多く、生徒の理解度や雰囲気を感じ取りながら柔軟に対応することが求められました。この経験から、準備と臨機応変さの両立、そして最後までやり遂げる力と判断力が養われました。また、チームではキャプテンを担い、積極的にコミュニケーションを取りながら信頼関係を築くこと、状況を素早く把握して最適な行動を選ぶ判断力を培いました。困難な場面でも責任から逃げず、チーム全体の成果を考えて行動できるこの力は、競技面はもちろん、社会人としての立場でも確実に生きています。

大学の4年間はあっという間です。勉強もスポーツも私生活も、全てがこれからの糧になります。「学生」と呼ばれる最後の時間を大切に、自分らしく全力で過ごしてください。私は今でも、大学生活は本当に楽しかったと胸を張って言えます。



飼沼 大地 2025年度 経営学部 スポーツ経営学科卒

所属: 硬式野球部
勤務先: オーエスジー株式会社 職種: 製造業

ご卒業、本当におめでとうございます。楽しいことや達成感だけでなく、悔しさや迷い、壁にぶつかった時間もあつたはずですが、しかしその経験こそが、社会で生きていくうえでの確かな土台になります。最後までやり抜いたという事実は、何よりの自信です。

私は現在、オーエスジー株式会社に切削工具の検査業務に携わりながら、軟式社会人野球部で競技を続けています。社会に出て強く感じるのは「結果には責任が伴う」ということです。自分が検査した製品は、自動車や医療機器など多くの現場で使われます。不備があれば多くの人や企業に影響が出る。その重みを日々感じながら仕事をしています。

社会人に求められるのは、才能よりも覚悟だと感じています。役割を全うする覚悟、うまくいかないときに自分と向き合う覚悟、挑戦をやめない覚悟。これは学生時代に野球を通して学んだことと、まったく同じでした。

どんな環境でも、自分の仕事に誇りを持ち、責任を背負い、前に進む。その積み重ねが信頼を生み、自分の価値を高めていきます。逃げず、甘えず、覚悟を持って一歩を踏み出してください。皆さんの挑戦が、力強い未来につながることを心から願っています。



山口 栞奈 2024年度 経営学部 スポーツ経営学科～大学院研究科 スポーツ経営学コース卒

勤務先: 株式会社ルネサンス
職種: 施設マネジメント(運営管理)

現在は「ルネサンス元氣ジム」で働いています。高齢者や介護認定を受けた方向けのリハビリ特化型デイサービスで、心身の機能改善・健康維持を支援しています。身につけた知識をご利用者様の運動指導に活かせること、そしてご利用者様やご家族から直接、体や生活の変化を喜んでいただける瞬間に、大きなやりがいを感じています。

大学の学士課程から研究活動に取り組み、論文やデータから必要な情報を取捨選択する力、ヒアリング・現地調査・アンケートを通じた情報収集・分析力を身につけました。また、得た情報と客観的な状況を照らし合わせ、問題の根拠を探り解決法を導き出す力も培いました。この力は今、ご利用者様おひとりおひとりに合った運動プログラムの提供に生きています。心身状態や生活環境はもちろん、日々の会話の中から些細な情報も拾い上げながら、ご利用者様の「自分でできる」を増やせるようチームで取り組んでいます。

大学生活に全力で向き合ったからこそ、思い描いていなかった大学院進学という新たな道も開けました。挑戦の中で力不足を感じることもあると思います。それでも自分の可能性を信じて、今だからできる経験をたくさんしてください。大学での学びと経験は、必ず自分の財産になります。

卒業生進路 代表者インタビュー

2025年度 キャリア教育・支援の総括



キャリア支援課長
田部 良治

キャリア支援課では、2025年度より「全学生が優良企業に就業できるキャリア支援」を目標に、キャリア教育と支援の抜本的な改革を実施しました。

卒業年次生のキャリア支援については、企業での人事採用経験を持ちキャリアコンサルタント等の専門資格を有するスタッフが個別サポートにあたり、2024年度の全学部実就職率96.4%（全国34位）を上回る成果を目指して取り組んでいます。

教育面では、経済学部・経営学部において1年次からキャリア意識を育む企業見学プログラム「ジョブシャドウイング」（参加率94.0%）や、企業担当者との双方向交流型イベント「ジョブ・トラベル」（参加率91.9%）を新たに導入しました。低年次から充実したキャリア教育を提供することで、学生が卒業後の就職を主体的に考える機会を創出しています。また、インターンシップ正課授業の受講者数は前年度の8名から95名へと大幅に増加し、3年次生のインターンシップ参加率も飛躍的に向上しました。さらに、悪質な就職エージェントによる不本意な就職という社会課題への対応として運動部学生を対象としたキャリアガイダンスを実施し、（一社）大学スポーツ協会のUNIVAS AWARDで優秀賞を受賞しました。

2026年度に向けては、実就職率98%・地元就職率80%をKPI目標に掲げ、全学生が優良企業に就職できるよう、全教職員が連携して学生一人ひとりに寄り添う支援体制のさらなる強化を図ってまいります。



池田 光太郎
経営学部
スポーツ経営学科

内定先企業名
株式会社名古屋銀行

大学で最も成長したと感じるのは、社会人としての基礎力と主体性です。キャリア支援課での面接練習を通じて礼儀や話し方など社会人としての基本を身につけました。また、キャリア形成の授業では実際に企業の方々のお話を伺う機会があり、就職活動の流れや職種への理解を深めることができました。その中でも特に金融機関の方のお話に強く惹かれ、地域に根ざした金融機関で働きたいという目標が明確になりました。目標を定めたことで、面接や適性検査などさまざまな場面において、自ら考え行動する姿勢が自然と身につけていったと感じています。

就職活動は3年生の11月から本格的に始め、合同説明会にも積極的に参加しました。慣れない環境や準備の負担に不安を感じることも多くありましたが、一つひとつ行動を重ねるごとに、少しずつ自信へと変わっていききました。うまくいかない時期もありましたが、そのたびにキャリア支援課の方々や家族に相談できる環境が大きな支えとなりました。一人で抱え込まず、周囲に助けを求めながら前に進んだからこそ、壁を乗り越えることができたと感じています。支えてくださった全ての方への感謝を忘れず、社会人として責任ある行動を積み重ねていきたいと思えます。

内定先は株式会社名古屋銀行です。地域経済を支える金融の担い手として、責任と誇りを持って地域社会に貢献していきます。お客様との信頼関係を何より大切に、地域から必要とされる存在へと成長していく決意です。金融は、地域で暮らす人々や企業の夢や挑戦を支える仕事だと思っています。大学の学びと就職活動を通じて培った主体性を胸に、一步一步着実に前進していきます。

後輩の皆さんには、1・2年生の早い段階から説明会に参加し、企業の方と直接話すことをおすすめします。実際に話を聞くことで、漠然としていた将来像が具体的に、自分が本当にやりたいことも見えてきます。自分の進路は自分で切り拓くもの。情報を待つのではなく、自ら動いて得た経験こそが、就職活動の大きな力になります。迷う前にまず一歩踏み出す行動が、将来の可能性を大きく広げてくれると思えます。



山口 莉奈
看護学部
看護学科

内定先企業名
大垣市民病院

大学生活で最も成長したのは、目標を掲げ、主体的に行動できるようになったことです。臨床実習では緊張や戸惑いもありましたが、実践を重ねる中で知識と経験が結びつく手応えを感じ、カンファレンスでの意見共有を通じてコミュニケーション力も養うことができました。

この実習での学びを糧に、4年次の4月から国家試験対策に本格的に取り組みました。初回模試では学内下位という悔しい結果でしたが、根拠に基づく思考を大切にしながら毎日粘り強く学習を積み重ねた結果、最終模試では上位に入り、80点ほど点数を伸ばすことができました。困難な状況でも計画的に努力を続けることで、成果と自信につながることを実感しました。

半年間の実習と卒業研究、国家試験対策を並行する日々は心身ともに大きな負担でした。そんな時、先生方の温かい助言と友人と気持ちを分かち合える環境が大きな支えとなりました。周囲の支えがあったからこそ最後までやり抜けたと感じています。

内定先は大垣市民病院です。地域に根ざす医療機関の一員として、患者様一人ひとりと真摯に向き合える看護師を目指します。地域の方々に「困ったときに思い出していただける存在」となれるよう、専門性と人間性の両面を磨き続けていきます。

後輩の皆さんには、早い段階から病院説明会やインターンシップに参加し、現場の看護師の方々や直接話すことをお勧めします。まず一歩踏み出す行動が、自分の可能性を大きく広げてくれます。応援しています。



小林 大騎
経済学部
経済学科

内定先企業名
岐阜県庁

大学で最も成長したと感じるのは「考える力」です。1・2年生ではキャリア形成の授業で就職活動の基礎を学び、3年生からはゼミの先生やPAC支援室でインターンシップ先について相談しながら進路を具体化していききました。自治体財政研究会では自治体職員との共同研究を通じて財政運営や施策について学び、頭を使って考え、整理し、発信する機会を重めました。こうした経験を通じて、面接でも自分の強みや想いを整理して確実に伝えられるようになりました。この積み重ねが、目標であった岐阜県庁合格につながったと感じています。

就職活動では、限られた面接時間の中で自分の魅力を十分に伝えられない悔しさを感じることもありました。しかし、先生方や支援室の方に何度も相談し、面接練習を繰り返すことで少しずつ自信を持てるようになりました。金銭面や体調・メンタル面でも支えてくれた両親の存在も、大きな力になりました。合格を伝えた際に涙を流して喜んでくれた姿は、今も心に深く刻まれています。その感謝を胸に、社会人としての一歩を踏み出していきます。

今後は岐阜県庁職員として、多様な業務を経験しながら専門性を高め、県民の暮らしを支える仕事に誠実に向き合っていきます。生まれ育った岐阜に恩返しができる存在になることが、私の目標です。

後輩の皆さんには、1・2年生のうちから進路を意識して行動することをお勧めします。低年次からの積み重ねは必ず将来につながります。迷うことがあっても、まずは一歩踏み出して挑戦してください。その経験が、自分だけの強みになっていきます。



廣濱 裕也
経営学部
経営情報学科

内定先企業名
株式会社かんぽ生命

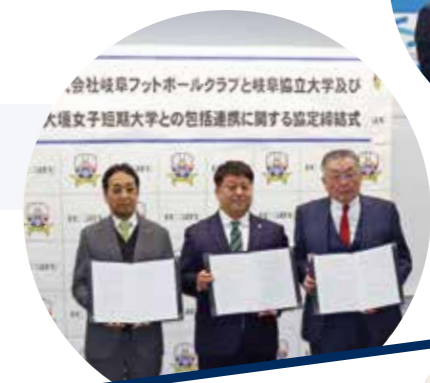
大学で最も成長したと感じるのは、計画性と目標達成力です。就職活動の早期化を意識し、3年生の夏には大企業と中小企業のインターンに参加しました。冬のインターンから直結する採用を見据え、早い段階から準備を進めることを意識しました。また、キャリア支援課の就職特別講座にも積極的に参加し、自己分析を深めながら自分の強みを言語化する力を磨きました。計画を立てて行動し、結果につなげるという経験を重ねる中で、自ら目標を設定し達成する力が確実に身についたと感じています。

就職活動では、常に先を見据えて準備する必要があるし、不安を感じる場面もありました。そんな中で自分の軸となったのが、1年生の時に取得したFP3級です。保険分野への知識と興味を深める中で、情報系の学びも経験しましたが、お客様と近い距離で関わり、生活や将来を共に考えられる仕事こそ自分に向いていると確信し、生命保険業界を志望しました。悩んだ時期も、精神面・体調面で支えてくれた家族の存在が大きな力となりました。合格の報告をした時の家族の笑顔は、今も忘れられません。心から感謝しています。

今後は生命保険業界で、お客様一人ひとりに寄り添い、将来の安心を支えられる存在を目指します。大学で培った計画性と目標達成力、そしてFP取得を通じて深めた専門知識を胸に、誠実に学び続けながら成長していく決意です。地域のお客様にとって、困ったときに頼れる存在になることが目標です。

後輩の皆さんには、1・2年生のうちから意識的に行動することを強くお勧めします。早い段階で経験を積むことが、3年生になったときの自分の軸につながります。まず一歩踏み出して計画を立て行動することが、やがて大きな自信へと変わっていくはず。応援しています。

4年間の軌跡



2022年度		日本・世界の出来事	岐阜協立大学の出来事
4月	成年年齢が20歳から18歳に引き下げ		
5月	沖縄の本土復帰から50年		
7月	安倍元首相が選挙応援演説中に銃撃され死亡		秋神グラウンド運用開始
12月	サッカー日本代表がW杯カタール大会で強豪スペイン・ドイツを破りベスト16		
2月			SDGs ACTION! 開栓式開催
3月	WBC (ワールド・ベースボール・クラシック) で日本が14年ぶり優勝		看護学部一期生卒業 留学生別科廃止

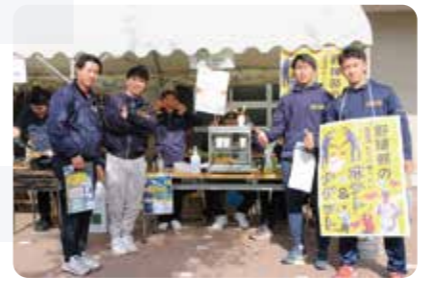
2024年度		日本・世界の出来事	岐阜協立大学の出来事
7月	20年ぶりとなる新紙幣発行 パリ2024オリンピック・パラリンピック開催		
8月			揖斐川町財政研究会スタート
10月	石破茂氏が首相に就任 ノーベル平和賞 被団協が受賞		
1月	ドナルド・トランプ氏が米大統領に就任		清凌高等学校と「教育活動における協力関係構築に関する覚書」を締結
2月			FC岐阜と包括連携協定を締結

2022年度

2023年度



2023年度		日本・世界の出来事	岐阜協立大学の出来事
4月			原田 理人経営学部教授が学長に就任
5月	新型コロナウイルス感染症が5類に移行		バレーボール部が東海大学1部男女リーグ戦春季大会でアベック優勝 4年ぶりに五月祭開催
10月	将棋の藤井聡太竜王が史上初の八冠		
11月			4年ぶりに行動制限のない学園祭開催
12月			岐阜県初のUNIVAS SSC認定 女子バレーボール部創部初の全日本インカレベスト4
1月	能登半島地震発生		



2025年度

2025年度		日本・世界の出来事	岐阜協立大学の出来事
4月	大阪・関西万博が華やかに開幕		
8月			「京都府と岐阜協立大学との就職に関する協定」を締結
9月	東京2025世界陸上が開幕		
10月	高市総理大臣が誕生 初の女性首相に沸く		本学硬式野球部 相良雅斗投手が福岡ソフトバンクホークスよりドラフト4位指名を受ける
12月			【経済学部】 中学校教諭一種免許状(社会)の教職課程が認定
2月	ミラノ・コルティナ 2026冬季五輪が開幕		



Memories





校友会会長 松井 一利

卒業生の皆さんへ

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これまで共に過ごした時間や経験は一生の宝物です、皆さんの新たな一歩が幸せに満ち溢れるものとなりますように。

広い世の中に出ればつまずきや失敗もあるかもしれませんが、でも大丈夫ですそれはこれからの人生の成功への道のひとつです。自分を信じ 大きな夢を持って輝かしい未来を切り開いて下さい。

本学の同窓会組織は「校友会」と称して大学と連携しながら、母校と学生の皆さんを応援する存在であります。校友会を通じて近況を報告しあうなどして、大学時代の仲間や先生とのつながりを続けていきます。皆さんの傍らには、いつも仲間である校友がいることを忘れないでください。皆さまの未来に幸多かれと祈ります。

岐阜協立大学 校友会とは

岐阜協立大学校友会(愛称:伊吹嶺会)は、母校の興隆に寄与し、卒業生相互の親睦をはかることを目的として1971年に創設された本学卒業生の同窓会です。皆さんの先輩は、今や2万5000人を超え、全国各地で活躍しています。

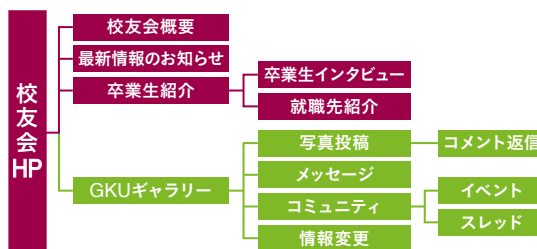
校友会では、親和会(父母の会)とともに課外活動用大型バスを寄贈するなど、母校後援のための事業も行っています。

また、定期的に校友会総会・懇親会を開催し、大学・校友会の状況報告や会員相互の親睦を深める活動をしています。そして、新卒業生の皆様を対象とした卒業祝賀パーティーを開催したり、課外活動支援制度による助成金を支給したりと、在学生の皆さんへの支援も行っています。

GKUギャラリー

2023年度に校友会ホームページの全面リニューアルに合わせてGKUギャラリーを開設しました。GKUギャラリーは、住所変更、勤務先変更等の登録ができるだけでなく、卒業生限定の交流サイトとなっております。同じゼミや同じサークル、卒業年度の仲間が集まり懐かしい思い出に花を咲かせたり、共通の趣味を通じて新たな出会いの場となればと思っています。さらに、簡単にイベントを企画することもできますので、ぜひOB会や同窓会などに活用してください。

校友会HP <https://www.gku-koyu.gku.ac.jp/>
GKUギャラリー <https://koyu-gallery.gku.ac.jp/LoginPage>



主な校友会事業

●校友会総会・懇親会

大学・校友会の状況報告や会員相互の親睦をはかる目的で、2年に1度、校友会総会・懇親会を開催します。次回は2026年の秋に開催を予定しております。懐かしい旧友・恩師の皆さんとの楽しいひとときを期待してお待ちください。

●校友会報発行

大学の最近の動きを始め、「校友の近況だより」、現役大学生たちの活動を伝える「課外活動成績報告」、支部グループの「OB会案内」などを掲載した校友会報を年1回発行し、大学・校友会や会員からの情報を発信しています。

校友会についてのお問い合わせ

【校友会事務局】岐阜協立大学 総務企画課内
TEL:(0584)77-3505 FAX:(0584)81-7807
E-mail:koyu@gku.ac.jp



大学広報誌(GKU Now)は
本学公式HPをご覧ください



◀バックナンバーも
ご覧いただけます